



日本人学生が みつばち保育所へ 行ってきました！

私は、6 月にオリーブジャパンを通してエルサルバドルのみつばち保育所を訪問しました。以前から現地でのみつばち保育所の活動にとっても興味を抱いており、今回念願の現地訪問ができませんでした。滞在はわずか 9 日間という短いものでしたが、子どもたちからたくさんの活力と愛情を与えられ、また現地のスタッフと時間を過ごすことによってとても刺激を受けました。みつばち保育所には 3 歳から 15 歳までの子どもたちが通っています。学校が終わると子どもたちは保育所に宿題を持参し、落ち着いた環境の中で勉強します。スタッフである学生たちも彼

らのために特別授業や活動を準備しています。子どもたちは皆とても生き生きとしていて、私がスペイン語を話せなくてもお構いなく色々な質問をしてきたりして、最初はとても驚きましたが、少しずつ子どもたちと時間を過ごすうちに、「子どもはどこの国も同じだ」と感じました。注目されたくておかしいことをする子やいたずらをする子、恥ずかしがってスタッフの後ろに隠れてしまう子がいたり。子どもたちは常に好奇心旺盛で疲れを知りません。追いかけてこが始めると 1 時間でも平気で走り続けます。また、私の留学先であるカナダの生活や日本での生活との違いなど何度も聞かれ、異文化に対してとても興味を持っているのだと感じました。

また、現地のスタッフと共に保育所を支えるためのバザーを開いたり、精神病院の慰問活動、彼らが主催する文化イベントの準備などをしました。スタッフは自分の仕事や勉強、アルバイトで忙しいにも関わらず常に互いを助け合う姿が印象的でした。彼らは何かをするということよりも、側にいる人たちと時間を共有するというのを大事にしていました。ある時、私たちは何かをするために集まりましたが、何らかの理由ですぐに作業が始められませんでした。そのような状況の中でも、決してイライラしたり、不平をこぼしたりする人は一人もいませんでした。私にとって、それは日本でなかなか目にすることができない光景です。なぜなら、皆それぞれ学校やアルバイトの忙しさを理由に 1 分 1 秒も無駄にしたいと、自分中心に行動していることが多いように感じるからです。みつばち保育所で働くスタッフたちは、自分に与えられているものに対して素朴に感謝し、喜びを感じながら働き続けています。今回、短い滞在になりましたが、経験したことを自分の環境の中で生かし、この保育所の活動が継続していくように協力支援していきたいと思います。



南山大学総合政策学部 4 年 山田 桃子

〈学生が子どもたちに折り紙を教える様子〉

東日本大震災

—彼らの涙は私たちと関係ないのでしょうか—

オリーブジャパンは学生と若い社会人が中心となり、震災後すぐに街頭募金を行いました。

「彼らの涙は私たちと関係ないのでしょうか」というキャッチフレーズのチラシを配り、街行く方々に募金をお願いしました。2週間あまりで約30万円もの募金が集り、すべてカリタスジャパン（日本カトリック協議会における社会福祉活動の推進と国内外の災害援助、開発援助を行う部門）の「東日本大震災支援募金」に送らせていただきました。震災で亡くなられた方々と残された家族の皆様のために、そして被災された方々が一日も早く復興の日を迎えられますよう、心からお祈り申し上げます。募金してくださった市民の皆様には心から感謝を申し上げます。



3.11以降、原発の安全神話が崩れ、“日本が原発に依存せざるをえないのか”という問いかけに日本全体が口を開き始めました。私たちも正しい知識と情報を持って真摯に向き合う時が来ているのではないのでしょうか。

6月18日(土)、小浜市明通寺ご住職の中畠哲演氏による「若狭から考える福島“原発震災”」の講演会を行いました。

オリーブジャパン文化講演会

中畠哲演氏による

『若狭から考える福島“原発震災”』

中畠氏は高速増殖炉もんじゅを含め原発15基が立ち並ぶ若狭で長年脱原発市民運動をしてこられました。お話の中で印象的だったのは、わたしたち「都市住民」の便利な生活が、累計45万人の被爆労働者、また、麻薬的な交付金と引き換えに危険な原発を集中立地させられてきた地域の方々の大きな犠牲と差別の上に成り立っているということです。100万kwという標準的な大きさの原子炉が一年動くと広島原発一千発分の放射性物質が貯まります。このような危険性があるにも関わらず、地元では「金力・権力・暴力」による行政的圧力が強く、反対運動に携わることも、疑問を口にすることも難しいそうです。また、若狭で一年間につくられた電力（2008年度）620億kw/hのうち、若狭で消費されたのは6億kw/hにすぎず、残りは全て関西に送られました。この「若狭-関西」の関係は「福島-首都圏」、「浜岡-中京」も同じです。今、福島原発事故により、たくさんの方が苦しんでいます。わたしたちは、自分たちの贅沢な生活と無関心を改め、取り返しのつかない犠牲の上に成り立っている原発ではなく、「命」を選択するべきなのではないのでしょうか。幸い、日本は世界トップレベルの様々な自然エネルギー技術がすでにあります。あとは、私たちの選択しだいなのです。



〈平野 みな〉

城北橋バザー



6月5日(日)城北橋教会のバザーに参加しました。
バザーの収益金と寄付金のすべてはエルサルバドルの
みつばち保育所へ送らせていただきました。

お買い物をしてくださったお客様、品物を寄付してくださった
方々と城北橋教会の皆さまに心から感謝申し上げます。



〈バザーの様子〉

＊初めてオリブスタッフとして参加しました＊

私は今回初めて、「みこころバザー」にスタッフとして参加しました。当日は、子どもから大人、外国人の方などたくさんのお客さんが朝早くから開店を待っており、最初はそのエネルギーに圧倒されていました。勝手が分からず戸惑いもありましたが、積極的に品物を勧める先輩スタッフを見習い、私も少しずつ声をかけていくうちに、自分から買ってくれる人が出てきて嬉しくなってきました。一風変わった洋服や雑貨が予想外に売れたり、出品された品々を見ているのも楽しかったです。私自身もモダンなワンピースをお手ごろで買えたり、収穫の多い一日でした。

〈20 代会社員〉

ゴッホ展へ 行きました!!

2011年3月13日に「この日ゴッホに会える」と題してオリブジャパン文化講座を開催しました。講師はオリブジャパンの柴田高良先生。ゴッホが独学で絵画の道を切り開きつつも、多くの画家や仲間から啓発されてきた過程をわかりやすく説明していただきました。絵が大好きな方、初めて美術館に行く方、友人に誘われ来た方、様々な状況ときっかけで多数の人が集まったこの日の3日前には東北・関東大地震が起き、日本中が不安に陥りました。しかしそんな時だからこそ、具体的に働き、出会える人間関係を活かそう、大切にしようという気持ちで文化講座を行いました。この文化講座の収益金は、東日本大震災の募金とさせていただきます。



〈ゴッホについての講義の様子〉

オリーブジャパン文化講座ーレポートー



南イタリア家庭料理 基礎コース

日 時： 毎月 1 回土曜日 13：30～16：30
 場 所： 各回ごとお問い合わせください
 参加費： 6,000 円
 講 師： 柴田 淑美
 (南イタリア アグロポリ家庭料理研究会主催)

どこにでもある材料を使ってあっという間に出来上がり、そして美味しい！というのがこの講座のモットーです。素材を生かしたシンプルな味付け。その秘密はオリーブオイルと塩。そして家庭料理は手早くできることが一番大事！1時間のうちにフルコースが出来上がります。その季節にふさわしいメニューを学びますが、時には「来月は〇〇が食べたーい」という生徒さんの声にも応えます。南イタリアのルイザお母さんの直伝の味と一緒に作りましょう。お料理が苦手な方も大歓迎。是非一度参加してください。



洋 画 講 座

日 時： 毎月第 3・4 土曜日 17:30～19:30
 場 所： 生協生活文化会館 3F
 参加費： 6,000 円
 講 師： 柴田 高良
 (イタリア国立ミラノ美術学院卒業・柴田造形教室主催)



水彩、パステル、油絵、デッサンなど、それぞれ学びたいものを自由に教えてもらいます。この講座は「絵を描く楽しさを味わう」ことを大切にしています。先生は個性を大切に、それぞれの豊かな表現を最大限に引き出してくれます。初心者から上級者までいろいろな方が参加しており、年齢もさまざまですがアットホームな教室です。絵を描いてみたいけどなかなかきっかけがないという方、個性を伸ばしたいという方、一度見学にいらっしやいませんか。

INFORMATION

会員募集

オリーブジャパンの活動に賛同していただけの会員の方を随時募集しています。

- ・ 賛助会員 (一ヶ月一口 10,000 円)
- ・ 正会員 (一ヶ月一口 5,000 円)
- ・ 協力会員 (一ヶ月一口 2,000 円)
- ・ 参加会員 (一ヶ月一口 1,000 円)
- ・ 同調会員 (一ヶ月一口 500 円)

郵便振込用紙に必要事項と会員の種類、納入方法(月払い/年一括)をご記入の上、会費を納入ください。

振替口座番号

00890-1-24582

会員の皆様には、会報「オリーブ・プレス」と講演会、バザー等のご案内を優先的にさせていただきます。

*お問い合わせは、下記連絡先まで オリーブ・プレス Vol.14
 オリーブジャパン国際開発協力協会 olivejapan80@hotmail.com